

**第11回全国和牛能力共進会へ  
鹿児島県代表として  
15年振りに垂水市から出品決定！**



今月の特集は、「和牛の五輪」と呼ばれる、「第11回全国和牛能力共進会（9月7日～11日／宮城県開催）」についてご紹介いたします。

**全国和牛能力共進会とは**

皆さんは「全共」をご存じでしょうか。「全共」とは、「全国和牛能力共進会」の通称で、全国の優秀な和牛を5年に一度、一堂に集めて競う全国大会で、「和牛の五輪」と呼ばれています。雄牛・雌牛の体型の良さなど、改良成果を月齢別に審査する「種牛の部」と、枝肉の状態で脂肪の入り具合などの肉質を審査する「肉牛の部」に、全国の代表牛約500頭が出品されます。優秀な成績を収めることで、その和牛ブランドの市場価値が全国的に高まるため、

参加道府県にとっては、まさに威信をかけた大会となります。第11回目となる今年は、全共が宮城県において、9月7日（木）～11日（月）に開催されます。また次回開催となる第12回は、平成34年に鹿児島県での開催が予定されています。

参加道府県にとっては、まさに威信をかけた大会となります。第11回目となる今年は、全共が宮城県において、9月7日（木）～11日（月）に開催されます。また次回開催となる第12回は、平成34年に鹿児島県での開催が予定されています。

**笠木ひさ子さんの牛が  
15年振りに全共へ出品**

7月29日（土）から30日（日）にかけて、全共の鹿児島県最終予選会が霧島市の始良中央家畜市場で開催され、県内10地区から選抜された「種牛の部」の牛115頭が出品され、代表牛22頭が決定しました。そのうちの1頭は、上市木在任の笠木ひさ子さんの牛「名号：さちえ2」で、第5区繁殖雌牛群（3産以上の牛）において最優秀賞を受賞し、県代表牛として出品されることになりました。



笠木ひさ子さん一家と「さちえ2」



鹿児島県最終予選会の様子

◎詳細情報  
全国和牛能力共進会の情報は下記QRコードよりご覧いただけます。



本市からの出品は、平成14年に開催された第8回大会以来、15年振りの快挙となります。全共では、県代表として優秀な成績を収められることを期待しています。

**和牛のことをモ～少し知りたい！**



**和牛は4種類（黒毛和種、褐毛和種、無角和種、日本短角種）**  
明治以前の日本に昔からいた「在来」の和牛の由来には様々な説がありますが、弥生時代にヨーロッパ起源の原牛がモンゴル、華北を経て朝鮮半島から入ってきたという説が有力です。和牛は1900年以降、改良への取組が行われ、1944年には、「黒毛和種」「褐毛和種」「無角和種」の3品種が和牛の固定品種として認められ、さらに1957年には「日本短角種」が品種と認められました。

◎参考資料／「これからの和牛の育種と改良改訂版（全国和牛登録協会）」、「教えて！日本の畜産（日本食肉消費総合センター）」



**肥育牛における歴史  
才原金次郎の功績**  
肥育牛の歴史については、協和地区に関連する「才原金次郎翁記念碑」があります。大正の始め、中俣の才原金次郎は、自家飼育はもちろん、貧農に対して子牛を預け、そして育った成牛を買い取るという「飼育牛模合制度」を設け、農家の現金収入の道を開いたと言われています。



◎参考資料／「協和づくり計画（協和地区公民館）」



**全国和牛能力共進会における  
黒毛和種の種牛審査には  
大きく5つの審査標準が  
設けられています。**  
今回ご紹介している全国和牛能力共進会の黒毛和種の種牛審査では、「体積」「均称」「品位」「資質」「乳微」の大きく5つの項目について審査されます。

- ①体積** 良好な発育や体軀栄養適度などを審査
- ②均称** 頭や頸などの釣合いや体上線・体下線が平直などを審査
- ③品位** 輪郭の鮮明さや体や骨のしまりなどを審査
- ④資質** 被毛の色や光沢、皮膚のゆとりを審査
- ⑤乳微** 乳房の均等や容積質感などを審査

◎参考資料／「第66回鹿児島県畜産共進会出品目録」